

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300393	
法人名	医療法人社団一真会	
事業所名	グループホームまごころ	
所在地	香川県木田郡三木町井戸533-3	
自己評価作成日	平成29年8月29日	評価結果市町受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会	
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号	
訪問調査日	平成29年10月12日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設医療機関との連携により、緊急時においても迅速に対応ができ、利用者や家族の安心感を得ている。また、利用者の高齢化・重度化を受け止め、終末期の方針についても医師や関係職員、家族などと十分に話し合い、家族や利用者の希望に添えるよう取り組んでいる。「思いやりの心」を大切に、一人ひとりの要望やペースに合わせ、そのよらしを支えるため、他職種と協力・連携をしっかりと図りながら、利用者主体のサービスに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

併設の医療機関との連携が緊密であり、緊急時の対応に加え、入居者の重度化や医療ニーズにも対応しており、利用者や家族の安心感につながっている。職員は、「思いやり」という自分たちで掲げた目標をもとに、日々のケアに取り組んでいる。管理者が積極的に職員の意見を取り入れていることや職員間のチームワークの良さがうかがえる。有資格者が多く、外部の研修にも積極的に参加している。家族には毎月、利用者の状況や行事などを記載した便りを送付するとともに、電話や面会時に近況を報告するなど、信頼関係の構築に努めている。毎日の手づくりおやつは、入居者にとって楽しい時間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念に加え、各階で「利用者主体の介護」を目標に、相手の事をよく考え、喜んでいただける介護を提供できるように、具体化した理念を掲げている。理念の定期的な見直しも行き、実践に向けた取り組みをしている。	事業所全体の理念に加え、各階で独自の目標を掲げ、朝の申し送り時に唱和している。各階ともに「思いやり」という目標のもと、日々のケアに活かしている。特に言葉遣いなど、目標に照らして、実践できているかどうか話し合う機会が増えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くを散歩したり、近隣のお店へ買い物や外食に出掛け、交流している。秋祭りには獅子舞が来てくれる。	日常的には事業所周辺の散歩の際に、地域の方に挨拶をしたり、地元の店舗などに買い物に行くなど、地域との交流を図っている。また、秋祭りには獅子舞が数か所から来てくれる。	学校や幼稚園など、地域の教育機関、またボランティア団体との交流や、運営推進会議等で地域が必要としている活動には、どのようなものがあるか確認し、より積極的に地域貢献を行うことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員も運営推進会議に参加していただき、地域との支えあいを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回、運営推進会議を開催し、活動報告や意見交換の場として機能している。	2か月に1回、町の職員や地域包括支援センター職員、地域の民生委員参加のもと開催している。会議では、事業所から入退居の状況や委員会活動、行事の様子などを写真を活用して丁寧に報告しており、参加者から様々な意見やアドバイスを得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時や、身体障害者の医療費受給の手続き、毎月の入居者数の報告時の機会に、町の担当者に利用者の暮らしぶりを伝えたり、情報交換を行うようにしている。	運営推進会議の際に情報交換を図るとともに、介護保険の更新申請や運営上の質問点などは、直接役場に出向いて相談している。町の職員とは顔なじみの関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、身体拘束排除理念を掲げ、勉強会を実施し理解している。同じ建物内のデイケアにも協力してもらいながら、鍵はかけないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合を除き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な勉強会を開催し、身体拘束について職員に周知を図っている。やむを得ず拘束する場合は同意書をとるとともに、拘束をしないケアの実現に向けて随時、検討している。外に出たそうにしている場合は、職員から声かけし散歩に連れ出すなど、工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会を通して、虐待について学び、虐待のないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用されている利用者があり、成年後見人や社会福祉協議会職員とも密に連絡を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族に十分に説明を行っている。オムツ等料金の改定がある場合は毎月のお便りでお知らせし、面会にいられた時にもお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、利用者や家族の意見や思いを伝えられる機会を作っている。また家族会を開催し、意見や不満などお聞きし、希望に沿うよう努力している。	毎月の便りや電話、面会時には利用者の状態を報告し、家族との信頼関係を築きつつ、意見や要望を聴くようにしている。また、毎週、傾聴ボランティアが来て利用者の話を聴いてくれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者・各ユニットのリーダーが月一回集まり、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。決定事項は申し送りノートに記入し、全職員に伝えている。	月に1度のリーダー会議で、職員からの意見や提案を聴いている。浴室や洗面台など、職員の意見をもとに改修を行った。また、日々のケアについての意見は、気づきノートに記載し、管理者と共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は職員の勤務状況について話し合う機会を持ち、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症やグループホームの在り方に関する研修のほか、様々なテーマを取り上げ、事業所内の研修だけでなく、外部の研修への参加を通して、知識や技術の習得や職員間の情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会以外での同業者との交流は少なく、十分なネットワーク作りはできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネジャーから話を聞いたり、ホーム見学時に本人自身からも、困っていることや不安に思っていることなど話を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談やホーム見学時などに、家族が困っていることや不安に思っていること、本人への思いなど聴く機会を作り、家族との信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やケアマネジャーと連携を取り、可能な限り必要とされる支援を見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	かつて身につけていた技能や生活の知恵等を教わったり、職員と一緒に家事を行ったり、個別に役割を持つことで職員や利用者との支え合いの関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時に本人の状態を報告し、共に利用者を支える共働者として話し合いの場を持ち、現場に反映している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1階でデイケアを行っており、知人や近所の人とのデイケア利用時には手を上げたり顔を合わせ、よい関係を保っている。知人の訪室時は事前に連絡があり遊びに来られ交流を楽しまれている。	デイケアを利用している顔なじみの方との交流を図ったり、馴染みのスーパーなどに買い物に行くなど、関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入したり、利用者同士の相性を把握し楽しく過ごせるように配慮している。外出時は他の階の利用者と行く機会も多く、交流を図れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、入院された方のお見舞いに行ったり、ご家族にその後の様子をお聞きしたりして、付き合いを断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や夜勤時など、一人ひとりとゆっくりと会話をするように心がけている。日常の関わりの中からも言葉だけでなく、表情や仕草からそこに込められた想いを理解するよう努め、その内容をカンファレンスを開き、職員間で共有して話し合い検討している。	利用者一人ひとりとコミュニケーションを大切にし、意向や希望の把握に努めている。意思表示が困難な方についても、声かけを欠かさず、表情や仕草などから想いの把握に努め、気づきノートに記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の過去の暮らしぶりや、価値観を知る為にも生活歴等を家族に聞いたり、本人から昔の話をお聞きしたりし把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態を把握し、記録に残し申し送りをしている。自分のできる事は自分ですることによって、役割や生きがいのある生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見・意向を聞き、気づきノートを活用し記録や申し送りノートに記載するようにしている。職員間でも話し合いの場を持ち、月一回のカンファレンスで介護計画の見直しを行い、変化があった場合は家族と共に話し新たな介護計画を行っている。	面会時等に把握した家族の意見や、気づきノートに記載している情報をもとに、計画の原案を策定し、カンファレンスで検討している。カンファレンスには理学療法士が参加するなど、さまざまな視点から支援内容を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や申し送りなどで情報を共有し、日々の気づきや情報交換を通して、介護計画の見直しの活かすよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応について医療施設との連携が出来ており、家族の安心を得ている。また同一敷地内のデイケアを利用している地域の方と交流する等の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地域の民生委員にも参加していただき、情報交換をしている。毎月1回地域の理髪店の出張理容を利用している。傾聴ボランティアも毎週来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞き、かかりつけ医の受診支援を行っている。専門の治療が必要な場合には、家族と協力し受診している。毎週1回の訪問歯科治療も実施している。	母体の医療機関が主治医となり、定期的受診している。受診結果は、電話や便り等で家族に報告している。医療機関が隣接しており、夜間や緊急時の安心感に繋がっている。眼科等の専門科については、家族の協力を得て、受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に毎朝利用者の体調を伝え、必要に応じて受診することができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や相談を行うとともに、家族とも連絡を取り合い、回復状況をお聞きするなどして早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてのマニュアルを作成し、本人や家族の意向、状況の変化を踏まえて十分に話し合いを持ち、本人にとってよりよい環境が保たれるよう最善の方法を考え、全員で共有している。	入居時に「看取りについての事前確認書」をもとに、本人や家族の意向を確認している。また、状態の変化に応じて、その都度、家族の意向を確認している。看取り期には、「看取りの同意書」をとり、主治医の指導のもと、看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や緊急連絡先の明示などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や119番通報システムを完備している。運営推進会議で協力を呼びかけている。	年に2回、火災を想定した訓練を実施している。また、運営推進会議では、町や民生委員の参加を呼びかけている。水や粥などの非常食を備蓄している。	利用者の重度化や建物の構造を鑑みると、特に夜間の火災を想定して、避難誘導や隣接施設への応援要請など、いざという時に速やかに行動できるように訓練を繰り返し行うことを期待したい。また、火災のみならず、地震時の対応についても検討することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや対応にも十分配慮している。	「思いやり」という目標のもと、職員相互で言葉遣いをチェックしたり、尿汚染時、周囲に気づかれないように本人にさりげなく声かけ、居室で更衣の介助をするなど、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを汲み取れるよう言葉かけを工夫したり、話しやすい環境作りに努めている。言葉だけでなく、表情や仕草にも気を配り、想いの理解に努め、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、生きがいのあるその人らしい暮らしが送れるように支援している。また、その日の心身の状態を見ながら楽しく1日が過ごせるように臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一回出張理容を利用し、一人ひとり希望の髪形を取り入れている。外出時には一緒に洋服を選んだりし、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は一人ひとり好みの物を使用している。食事でもできるだけ季節感のあるものや、好みのメニューを取り入れるようにしている。利用者の方々も下膳の時に食器を重ねたりコップを集めたりと手伝ってくれる。	管理栄養士の献立のもと1階の厨房で調理をしている。糖尿食などの治療食や、キザミ・ミキサーなど、利用者一人ひとりの状態に対応している。月に1回は、ばら寿司や天ぶらの盛り合わせなど、職員と利用者が食事づくりを行っている。また、おやつも手作りにこだわるなど、食の楽しさを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算のもと、食事形態もキザミ食やトロミ食等、一人ひとりの状態に応じた食事の提供を行っている。食事を楽しむための環境や声かけにも配慮し、十分な水分確保ができるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて声かけや見守り、必要な介助にて口腔ケアの支援をしている。月二回訪問歯科に訪問歯科に来てもらっており、歯科医や歯科衛生士による適切なアドバイスが得られている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するため排泄チェック表を活用している。また表情や仕草などからもトイレのタイミングを計り、トイレ誘導を行い、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、気持ちよく排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、定時のトイレ誘導や個別に誘導を行っている。また、理学療法士の意見を踏まえて、トイレでの排泄に取り組むなど、自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事やこまめな水分補給に努めている。食べ物や運動による対応が難しい利用者は、医療との連携により、薬による対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体力や身体状態に合わせた入浴形態にも取り組み、浴槽に入れない方は足浴をしたりシャワー浴をしたりと希望に合わせて入浴は楽しめている。	普通浴槽に加え、利用者の重度化に対応するためにデイケアの機械浴を使用している。おおむね週に2回は入浴できるように支援している。特に、入浴時はコミュニケーションを取ることや安全面に十分に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えて熟睡できるようにしている。夜間はテレビの音量や照明、空調に気を配り、安眠や休息ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録に薬の効能・副作用・用法などを綴っており、利用者の疾病や処方されている薬についての知識を、常に全員が同じレベルに保てるよう取り組んでいる。薬の飲み忘れや誤飲がないようにし、症状の変化の確認にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとり、誕生日当日には誕生会を行い、手作りのカードやケーキ、プレゼントを用意してみんなで祝っている。家事の好きな利用者には洗濯物たたみなどしてもらい、生きがいや役割を持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外気浴や散歩を支援している。家族の方に個別ケアの機会を増やして個人の要望に応えられるよう努めている。	日常的には近隣の散歩や買い物、外食等で外出している。また、桜や菖蒲、菊花展など、季節の花を観賞に遠出をすることがある。家族に協力を仰ぎ、実家に帰る利用者がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、本人や家族の希望に応じて所持・使用の支援をしている。ショッピング・外食・散髪などだんだんと本人で支払いが難しくなっているので職員が預かっているお金で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親類や知人から小包等届いた時は、電話でのお礼や礼状を出すよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり、壁画や写真を飾るなど季節感を取り入れ、落ち着いて過ごせる空間作りをし、また、不快なおいがしないよう清潔を心がけている。ベランダで夏野菜を作ったり季節の花を植えたりと水やりを手伝ってもらっている。	屋内は白を基調に、中央のホールには大きな掃き出し窓があり、明るい雰囲気である。壁面には職員や利用者が作った季節の貼り絵などが飾られ、季節感や生活感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を自由に使い、馴染みの利用者同士でお茶を飲んだり、話をしたり、ゆっくり過ごすことができる空間作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやテーブル、椅子などを置き、なじみのものに囲まれ、その人らしく居心地のいい場となるようにしている。家族の写真や手作りのものなども飾り、楽しめるようにしている。	利用者それぞれ、タンスやテーブルなど、自宅で使い慣れたものを持ち込んでおり、その人らしい居心地のいい空間となっていることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体はバリアフリーになっており、手すりを多く設置している。居室には一人ひとり違った分かりやすい表札をつけるなどして、自立した生活が送れるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と各階独自の理念を作り、毎朝申し送り時に読み上げている。理念を意識し実践につなげた取り組みをおこなっている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事やショッピング・外食時に地域の人と交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員も運営推進会議に参加していただいております、地域との支えあいを大切にしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、活動報告を行い、気軽に意見交換もできるようになり、サービス向上に役立っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新の機会に町の担当者に利用者の暮らしぶりを伝えたり、身体障害者の医療費受給の手続きや毎月の入居者数の報告なども出来る限り訪問し情報交換に努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同じ建物内のデイケアにも協力をしてもらい、鍵をかけないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合を除いて身体拘束をしないケアに職員全員で取り組んでいる。身体拘束の必要な入居者には家族に説明し、同意書をもっている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム独自の勉強会を持ち、虐待のない介護に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会から日常生活支援事業や成年後見制度について教えていただいております、必要と思われる利用者がいれば活用できるよう支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者・家族に重要事項説明書等で十分に説明を行い、納得してもらった上で契約していただいております。オムツ料金改定などがある場合には毎月のお便りで伝えると共に面会時にも口頭でお伝えしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、苦情・意見等を伝える機会を設けている。また、家族会を開催し意見や不満などをお聞きし、運営に反映させるよう努力している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者・各ユニットリーダーが月一回集まり、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。決定事項は申し送りノートに記入し、全職員に伝えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は職員の勤務状況について話し合う機会を持ち、職場環境の改善に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や町主催の研修会の参加を推奨し、職員の向上心を高めている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修以外での同業者との交流の機会はなく、ネットワーク作りは出来ていない。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネから情報提供を受けたり、ホームの見学時に困っている事や不安に思っている事、要望等、本人からも聴き取りをするよう努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談から実際に見学していただき、グループホームの特徴などを説明し、家族の相談を受け止め信頼関係が築けるように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとの連携を保ち、可能な限り必要とされる支援が出来るように努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にできる事はしてもらい、できない事は支え利用者・スタッフで家族的な雰囲気を作るようにしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを発行して状態の報告をしたり、面会時には家族の意向も聞き、家族の協力の下その人らしい生活を送っていただけるよう支援している。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の訪問を歓迎している。他の階に入居されている近所の方と行事で交流できるようにしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の支え合いができるようその時の入居者の状態で席替えをしている。同席以外の人とも関わりをもっている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が入院時には見舞いに行き、話をしたりご家族にその後の様子を聞いたりして関係を断ち切らないよう努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞き、その都度話し合いを持ち、思いや意向の把握に努めている。定期的に家族の意向も確認している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしぶりや生活歴を家族にお聞きしたり、本人に昔の話をお聞きしたりして、把握するように努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の声かけにより体調や心身状態の把握をし記録と報告を密にしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとにカンファレンスで話し、意見を出し合い、介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りと記録により介護計画の見直しに活かしている。細かいことも記録し、情報の共有に努めている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時の対応・医療の充実・特別浴槽が確保されており、事業所の多機能性を十分活かした柔軟な支援をしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域の民生委員にも参加していただき情報交換をしている。毎月1回地域の理髪店の出張理容を利用している。また、傾聴ボランティアにも毎週来ていただいている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設は医院の併設施設であり、適切な対応が出来るよう整えてあるが、希望があれば他病院の受診も可能である。毎週1回の訪問歯科診療を受けられるように支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に利用者の体調を申し送りし、必要に応じて受診することができる体制を整えている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や相談を行うとともに家族とも連絡を取り合い回復状況をお聞きするなどして早期退院に向けた努力をしている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しての事前確認書類を作成し、医師・家族・職員で話し合いを行い、最善の策を考えている。重度化した場合にも本人にとって、良い環境が保たれるよう全員で話し合い支援を行なっている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や緊急連絡先の明示などを行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施や119番通報システムを完備している。運営推進会議で協力を呼びかけている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損なわないよう配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を汲み取れるよう声かけに工夫をしたり、話しやすい環境を作るよう努め、自己決定を尊重している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、個人のペースに合わせた生活を送るような希望に沿った支援をするように心掛けている。また、その日の心身の状態をみながら臨機応変に対応している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪店を利用し、身だしなみには気をつけている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同席の人で協力して食器の片付け・台拭きをしてもらい、下膳は安全の為職員が行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算した食事を提供している。必要な人にはミキサー食、キザミ食、濃縮栄養飲料、とろみなどを活用し、個々に応じた形態の食事提供をしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて声掛けや見守りを行い、必要な人には介助にて支援している。週1回の訪問歯科来所時には歯科衛生士による適切なアドバイスも受けられる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期的なおむつ交換やトイレ誘導を行い、排泄の支援に努めている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂れるよう心掛け、水分補給に努めている。食物や運動による対応が難しい利用者には医療と連携を取り薬による対応もしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に合わせて、入れるように支援している。身体状態に応じて機械浴での入浴もできる設備がある。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整え熟睡が出来るようにしている。夜間は、照明や空調に配慮し、安眠や休息を妨げないように努めている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬状をファイルし、一人ひとりの服薬について理解し利用者に合わせて服薬の支援をしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯たたみ、居室掃除、カレンダー作り、言葉取り、壁画作成等、個々での役割や楽しみを生活の中に取り入れて支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況や希望に沿って、ショッピングや外食の参加、場所を決めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理しているが、家族の協力を得て少額を本人が持っている人もいる。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、自宅や知人に電話をかける支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間のホールには利用者と職員が作った壁画を飾り、居心地のよい空間を作り出している。また、不快な臭いがしないように換気・清潔を心がけている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファと椅子を置き、ゆっくりくつろいで見ることが出来る場を設けている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を自由に配置し、写真や思い出の品を飾り、居心地の良い居室作りをしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっており、ホールには手すりが多く設置されている。トイレの手すりは可倒式になっており、利用者に合わせて使い方ができ自立した生活が送れるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に加え各階で分かりやすい理念を掲げ、その実践に向けて毎朝申し送り時に読み上げている。地域への外出や買い物を通して交流の場を多く持ち、入居者が地域で安心して生活出来るよう心がけている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店で買い物や外食をして交流をしている。秋祭りには獅子舞がきてくれている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員に運営推進会議に参加していただいております、地域との支え合いを大切にしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、活動報告や意見交換の場として機能している。具体的な質問等もいただけるようになった。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新時や、身体障害者の医療費受給の手続き、毎月の入居者数の報告時の機会に、町の担当者に利用者の暮らしぶりを伝えたり、情報交換を行うようにしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同じ建物内のデイケアにも協力をしてもらい鍵をかけないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合を除いて身体拘束をしないケアに職員全員で取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム独自の勉強会を持ち、虐待のない介護に努めており、維持されている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会から日常生活自立支援事業や成年後見制度について教えていただいております。必要と思われる利用者がいれば活用出来るように支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には利用者・家族に重要事項説明書等で十分に説明を行っている。オムツ料金の改定等がある場合には毎月のお便りで伝えるとともに面会に来られた時にも伝えている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議や面会時に苦情・意見等を聞き、運営に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者・各ユニットリーダーが月一回集まり、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。決定事項は申し送りノートに記入し全職員に伝えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は職員の勤務状況について話し合う機会を持ち、職場環境の改善に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や町主催の研修会に順次参加し育成に努めている。また、職員も積極的に参加している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修以外での同業者との交流の機会は少なく、ネットワークは構築されていない。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネからの報告を受けたり、ホームの見学・話し合いにより不安要素や本人の希望を本人からも聞き汲み取るよう努力している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談から実際に見学していただき、グループホームの特徴などを説明し、不安要素や要望を聴かせていただくようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やケアマネージャーとの連携を保ち、可能な限り必要とされる支援が出来るように努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に話し合いながら家事を行ったり暮らしの中で安全に行える役割を持つことで、職員や利用者との支え合いの関係作りに努めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを発行して状態の報告をしたり、面会時には本人にとってより良い介護についての相談、話し合いをして現場に反映している。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の訪問を歓迎している。デイケアと連携しており近所の方が訪ねてくることも多い。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や相性、精神状態を把握し、利用者同士の支え合いが期待できるよう配慮した役割分担や席替えを提案している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後入院された方のお見舞いに行ったり、ご家族にその後の様子をお聞きしたりして関係を断ち切らないように努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞き逃さないように心がけ、職員間ですぐに話し合いを持ち、把握・対応に努めている。利用者と一対一で話し合える機会を作るよう配慮している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日々の会話から一人ひとりの生活歴を探り、把握するよう努めている。また、家族の面会時に以前の暮らしぶりや生活歴を尋ねたりしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録として残しており、職員全員がいつでも見直すことが出来る。有する能力の気づきがあれば申し送るようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に沿った介護計画を作成するよう努めている。カンファレンスや申し送りを活用してアイデアを出し合っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りと記録により介護計画の見直しに活かしている。細かいことも記録し、情報の共有に努めている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応について医療施設との連携が出来ており、家族の安心を得ている。また、敷地内のデイケアを利用している地域の方と交流する等の支援をしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域の民生委員にも参加して頂き情報の交換をしている。また、毎月1回地域の理髪店の出張理容を利用している。毎週傾聴ボランティアにも来ていただいている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば、かかりつけ医の受診を支援している。毎週1回訪問歯科診療を受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて看護職員に利用者の体調を伝え、いつでも受診することができる体制を整えている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者を中心に医療機関との情報交換や相談を行うとともに家族とも連絡を取り合い、早期退院に向けた努力をしている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の話し合いに加え、重度化した際には医師・家族・職員の立会いのもと、その都度話し合いがもたれ最善策を考え共有している。また、看取りについての事前確認書を作成し家族の意向を共有できるよう努めている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や緊急連絡先の明示などを行っている。また、急変時や事故発生時には後日職員の対応について反省や情報共有に努めている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や119番通報システムを完備している。運営推進会議で協力を呼びかけている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーや誇りを尊重した言葉かけや対応に努めている。他人に知られたくないような話は個別に居室でしたり、生活歴を考慮した言葉かけを心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた表現で選択肢を提案し、自己決定を尊重している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日の希望に沿った生活が送れる支援をするように心掛けている。もし希望に添えない場合は本人と話し合い・相談する。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容店を利用しており、本人の希望に対応している。買い物では一緒に洋服を選ぶこともある。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みや能力に合わせた作業を振り分け、楽しみながら安全に職員と準備・食事・片付けが出来るよう心がけている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による指導や摂取量の記録・食事形態の変更・濃縮栄養飲料の活用などで支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて声掛けや見守りを行い、必要な人には介助にて支援している。残存能力の維持に留意している。また、週一回の訪問歯科による衛生アドバイスを受けることが出来る。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握することで気持ちのよい排泄の支援に努めている。個人の自立度に合わせて随時おむつの種類を変更している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂れるよう心掛け、水分補給に努めている。食物や運動での対応が難しい利用者には医療と連携をとり薬による対応もしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況を考慮した上で毎日一人ひとりの希望に合わせて入れるように支援している。本人の要望に合わせて当日の変更にも対応している。また、職員と利用者のコミュニケーションの場にもなっている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し一人ひとりの生活リズムや希望に配慮し、照明や空調の調整をして安眠の確保に努めている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録に薬の効能・副作用・用法などを綴じており、いつでも参照できる。利用者に合わせた服薬の支援をしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な裁縫で繕い物をしたり好きな計算をしたりパズルをしたりと、一人ひとりの生活歴や好みに合わせた支援をしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も得て一人ひとりの希望に沿って外出や買い物支援している。また、必要に応じて個別ケアの機会を設け、個人の要望に応えられるよう努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、本人や家族の希望に応じて所持・使用の支援をしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外で暮らしている家族などに手紙や年賀状、暑中見舞いを書いたり電話をかけることは本人の希望に応じて支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物をホールや玄関に活けたりして季節感を採り入れている。また、不快な臭いがしないように清潔を心がけている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを自由に使い、馴染みの利用者同士でゆっくり過ごすことが出来る空間作りに努めている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を自由に持ち込んでいただいたり、レクリエーションで作成したものを好きな場所に飾ったり本人らしい居室になるよう工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっており、ホールには手すりが多く設置されている。トイレの手すりは可倒式になっており、利用者に合わせた使い方ができる。